令和５年度　特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立波野小学校（外 10 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

１．特別の教育課程の編成の方針に係る公表に関する情報

学　校　名	特別の教育課程の編成の方針に係る公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立波野小学校	http://www.sopia.or.jp/namino/wp/?page_id=8899

２．特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

２００７年４月
２０１８年４月　変更

＊取組の期間
２０３０年４月まで

３．特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実は我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため，小学校第１学年及び第２学年の生活科 20 時間を外国語活動に替えて実施する。

４．地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え，発展してきた。また，2002 年にはFIFA ワールドカップの会場地となり，2020 年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり，「子どもが元気　香る歴史とスポーツで紡ぐまち　鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして，本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが，本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え，教育課程の特別措置申請を行うこととした。

５．実施の効果、課題および方向性

（１）特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

本校では、第１学年から外国語活動に取り組むことで、英語独特の音やリズムにも慣れ親しみ、英語での簡単な指示などを理解している。児童の中には慣れ親しんだ英語でＡＬＴに挨拶をしたり、休み時間に英語でＡＬＴに話しかけたりしている。しかし、第１、２学年の児童を対象としたアンケートでは、英語の授業について「どちらかというと楽しくない」「楽しくない」と回答した児童が少数いるので、苦手意識をもたせない授業の工夫・改善が必要である。

（２）課題の改善のための取組の方向性

- ・授業の中で、もっと意図的に児童の発言や態度を称賛し、児童が自信をもって楽しく活動できるようにする。
- ・ＩＣＴやＡＬＴをさらに活用して、外国語活動で慣れ親しんだ英語をアウトプットできる場面を増やしたり、児童にとって身近で興味のあるものを題材にしたりして指導の工夫と改善を図りたい。